

発表者 渡辺 牧朗 (生物圏変遷科学2年)

タイトル: 北海道三笠市桂沢湖上流域に分布する

上部蝦夷層群の化石層序学的研究

白亜系蝦夷層群は宗谷岬から浦河にかけて、北海道中軸部に広く分布し、アンモナイト、イノセラムス等大型化石を豊富に産することから、古くから多くの研究が行われている (Jimbo, 1894、Yabe, 1903、Matsumoto, 1942 など)。蝦夷層群はYabe (1909) により下部菊石層・三角貝砂岩層・上部菊石層に3区分された。その後、松本 (1951) によって下部・中部・上部蝦夷層群及び函淵層群に区分された。近年では有孔虫や放散虫などの微化石による生層序学的な研究も行われている (本山ほか, 1991 竹谷陽二郎, 1995 など)。蝦夷層群はアンモナイト化石層序をもとに、北太平洋地域の白亜系の模式層序とされている。化石層序・岩相層序の記録が連続的であるため、生層序学的な研究に適している。本研究は北海道中央部に位置する桂沢地域を選び、アンモナイト、イノセラムスの大型化石と放散虫化石による化石層序を確立することを目的としている。桂沢地域には中部・上部蝦夷層群が分布し、地質図幅「幾春別」 (吉田・神戸, 1955) をはじめ大型化石に関する古生物学的研究が数多く行われてきた (Matsumoto, 1965 など)。

本地域にはConiacian ~ Santonianの地層が分布しており、アンモナイト、イノセラムスの生層序について古くから研究が行われ、詳細な化石帯の設定が行われてきた (利光他, 1995 など)。また、放散虫層序についても隣接する夕張地域や浦河地域などにおいて研究が行われている (西田他, 1995 など)。高柳 (1985) は蝦夷層群について報告されている大型化石層序、微化石層序を統合し、より詳細な生層序区分を確立する必要を指摘している。

桂沢支流の熊追い沢には上部蝦夷層 (群鹿島層) が分布しており、主に暗灰色の泥岩が観察される。また、稀に中粒～細粒の砂岩薄層が見られ大型化石を含有するノジュールを豊富に含んで

いる。演者は熊追沢において、*Damesites damesi*をはじめ*Anagaudryceras limatum*, *Tetragonites glabrus*等のアンモナイト化石を報告した (Fig. 1 渡辺, 2007 MS)。本報告では昨年の調査において得られた*Gaudryceras denseplicatum*や*Damesites semicostatus*等の大型化石を加え、大型化石の産出レンジについてさらに再度検討を行った。また、微化石層序については十分な検討は行えていないが、大型化石を含有するノジュール中に放散虫を確認できた。これについても併せて報告する。



Fig. 1 熊追沢から産出するアンモナイト (スケールは1cm)

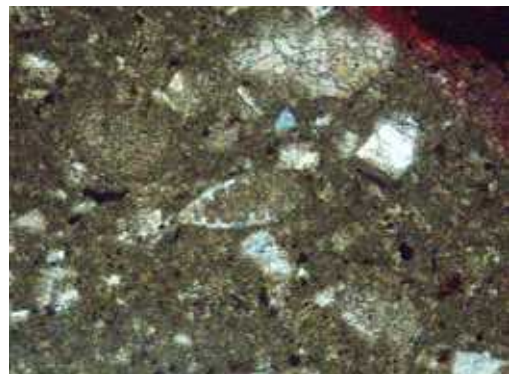


Fig. 2 薄片中の放散虫化石

連絡先

猪瀬 弘瑛 (生物圏変遷科学3年)
hiroaki@geol.tsukuba.ac.jp
鈴木 紀充 (惑星資源科学3年)
suzuking@geol.tsukuba.ac.jp
興野 純 (鉱物学)
kyono@geol.tsukuba.ac.jp

次回のセミナーのご案内

6月25日(水) 17:00

総合研究棟 B110

発表者 島村 雄彦さん (地圏変遷科学2年)
坂田 澄恵さん (生物圏変遷科学2年)
柴田 順吉さん (地球変動科学2年)